

平成29年度

学校経営計画（スクールマネジメントプラン）
（計画段階）
【分掌・教科4月】

京都府立東稜高等学校

平成29年度 府立東稜高等学校 学校経営計画

平成29年4月1日

□ 教育目標

「人間力」と「質の高い学力」を育み、社会に貢献できる人間を育成する。

□ 学校経営方針（中期経営目標）

「真の自己実現にTRY」をスローガンに、教育目標実現に向けたキャリア教育の推進を継続し、生徒が「伸びる」・生徒を「伸ばす」学校を目指す。本府「教育振興プラン」及び「学校教育の重点」を踏まえ、学習指導要領に即して創意・工夫した教育課程を編成し、日々の教育活動の充実を努め、希望進路の実現と、心豊かにたくましく生きる人間の育成を図る。

- 1 地域・生徒・保護者に信頼され、「来てかった」「行かせてよかった」学校となれるよう様々な教育活動を展開する。
- 2 厳しくも愛情のある粘り強い生徒指導を軸に、生活規律、学習規律を確立し、「自学・自習」の習慣を定着させ、高い希望 進路実現を図る。
- 3 部活動を更に活性化をさせ、府・近畿・全国で活躍する部活動を育成する。また、地域諸団体との連携をより一層強化し、地域スポーツ及び文化の振興に寄与する。

□ 本年度学校経営の重点目標（短期経営目標）

- 1 キャリア教育における取組内容のさらなる充実を図る
- 2 キャリアコースの3分野について、整備・体系化し、進路との関連性を含め、特色をより明確にする。
- 3 総合コースのキャリア教育について新たな取組を検討する。
- 4 希望進路実現に向けた具体的取組の充実。
 - (1) 日々の授業を柱として、基礎学力の定着、発展的学力の育成を図る。
 - (2) 一人一人の学習状況を把握し、弱点克服のための取組を勧める。
 - (3) SHRや自習スペースの活用等により学習習慣の定着を図る取組を行う。
 - (4) ICTを活用した授業に習熟し、「生徒に学力をつける授業」の構築を図る。
- 5 生徒指導の更なる充実
 - (1) 家庭と緊密な連携をとり基本的な生活習慣を確立する。
 - (2) 頭髪加工及び身だしなみに係る生徒指導の徹底を行う。
 - (3) 生徒会活動、部活動の充実を図る。
- 6 自他の生命と人権を大切にする意識や態度を培う取組を推進する。

□ 前年度の成果と課題

- 1 学習の基礎・基本を徹底させ学力の向上を充実させたい。
- 2 高大連携の充実を図ることができた。また、大学や地域から社会人講師を招いたり、施設 見学するなど、キャリア教育の取組も充実できた。
- 3 身だしなみや携帯電話、装飾品については、継続して指導する。化粧については、今年度徹底させたい。遅刻指導については、全校体制で改善に努めたい。
- 4 交通安全指導では、自転車安全利用推進員の講習会の実施ができた。今後、どう普及し、交通安全指導に関わるかが課題である。
- 5 学校説明会、ホームページ、「東稜だより」の定期的発行等を通して、情報発信を積極的に行い、中学校や地域社会から本校に対する理解を得られた。
- 6 部活動加入率は目標をやや下回った。部活動加入率を高め、より多くの部で一層の活躍を期待したい。
- 7 特別支援を必要とする生徒の増加に伴い、その支援の態様を検討したい。
- 8 授業公開（授業参観）、研究授業を活用して、授業力の一層の向上を図り、生徒の家庭学習時間の増加や学習力向上を目指した

(別記様式)

平成29年度 京都府立東稜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ **計画段階** ・ **実施段階** ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>「真の自己実現にTRY」をスローガンに、教育目標実現に向けたキャリア教育の推進を継続し、生徒が「伸びる」・生徒を「伸ばす」学校を目指す。</p> <p>本府「教育振興プラン」及び「学校教育の重点」を踏まえ、学習指導要領に即して創意・工夫した教育課程を編成し、日々の教育活動の充実に努め、希望進路の実現と、心豊かにたくましく生きる人間の育成を図る。</p> <p>1 地域・生徒・保護者に信頼され、「来てよかった」「行かせてよかった」学校となるよう様々な教育活動を展開する。</p> <p>2 厳しくも愛情のある粘り強い生徒指導を軸に、生活規律、学習規律を確立し、「自学・自習」の習慣を定着させ、高い希望進路実現を図る。</p> <p>3 部活動を更に活性化をさせ、府・近畿・全国で活躍する部活動を育成する。また、地域諸団体との連携をより一層強化し、地域スポーツ及び文化の振興に寄与する。</p>	<p>1 学習の基礎・基本を徹底させ学力の向上を充実させたい。</p> <p>2 高大連携の充実を図ることができた。また、大学や地域から社会人講師を招いたり、施設見学するなど、キャリア教育の取組も充実できた。</p> <p>3 身だしなみや携帯電話、装飾品については、継続して指導する。化粧については、今年度徹底させたい。遅刻指導については、全校体制で改善に努めたい。</p> <p>4 交通安全指導では、自転車安全利用推進員の講習会の実施ができた。今後、どう普及し、交通安全指導に関わるかが課題である。</p> <p>5 学校説明会、ホームページ、「東稜だより」の定期的発行等を通じて、情報発信を積極的に行い、中学校や地域社会から本校に対する理解を得られた。</p> <p>6 部活動加入率は目標をやや下回った。部活動加入率を高め、より多くの部で一層の活躍を期待したい。</p> <p>7 特別支援を必要とする生徒の増加に伴い、その支援の態様を検討したい。</p> <p>8 授業公開（授業参観）、研究授業を活用して、授業力の一層の向上を図り、生徒の家庭学習時間の増加や学習力向上を目指したい。</p>	<p>1 キャリア教育における取組内容のさらなる充実を図る</p> <p>2 キャリアコースの3分野について、整備・体系化し、進路との関連性を含め、特色をより明確にする。</p> <p>3 総合コースのキャリア教育について新たな取組を推進する。</p> <p>4 希望進路実現に向けた具体的取組の充実。 (1)日々の授業を柱として、基礎学力の定着、発展的学力の育成を図る。 (2)一人一人の学習状況を把握し、弱点克服のための取組を勧める。 (3)SHRや自習スペースの活用等により学習習慣の定着を図る取組を行う。 (4)ICTを活用した授業に習熟し、「生徒に学力をつける授業」の構築を図る。</p> <p>5 生徒指導の更なる充実 (1)家庭と緊密な連携をとり基本的な生活習慣を確立する。 (2)遅刻指導及び身だしなみに係る生徒指導の徹底を行う。 (3)生徒会活動、部活動の充実を図る。</p> <p>6 自他の生命と人権を大切に作る意識や態度を培う取組を推進する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	本校における特色ある教育活動を、全教職員の共通認識に基づいた取組に落とし込み、一体感または、支援する心を持って、援助・推進していける体制づくりに努め、取組体制の充実を図る。	教職員間での挨拶の励行等を徹底する。また、建設的な意見交流をしやすい、明るく活発な職場づくりを構築するとともに、学校経営方針の徹底と浸透を図る。 東稜高校の将来構想に繋げ、さらに取組を充実発展させるために、将来構想検討会議等を有効活用し、各種事業の継続と発展を図る。		
	本校の特色ある教育活動に工夫を加え、また、次年度以降を睨み、地域や保護者から信頼され、期待される東稜高校としての将来構想を具体化し発信する。	次年度以降に向けて、東稜高校の将来構想に繋げ、さらに取組を充実・発展させるために、キャリア教育推進会議、キャリアコース検討会議等を積極的に有効活用する。また、各種事業の継続と発展を図る。		
教育課程の編成と実施	東稜高校の将来構想に基づき、各コースに対応した特色ある教育課程を編成する。	平成30年度入学生において、各コースにおける生徒の興味・関心・進路希望等に対応した特色ある教育課程を編成する。 教育各種会議や関連分掌等と協議を深め、特にキャリア教育の観点から各コースの特性に合致した特色ある教育課程を編成する。		
	教育課程の実施状況を点検し、評価・反省に基づく改善を行う。	平成28年度、29年度入学生（1、2年生）における日常の学習状況や進路希望等を分析及び検証する。		
学習指導	授業規律を確保し、授業と家庭学習習慣を大切にできる態度を育成する。	ベル着の奨励と、始まるチャイムから終了のチャイムまでの50分間の授業を大切にする。 教科・学年・生徒指導等と連携し、授業規律に課題のある生徒の早期指導に努める。 朝SHR・LHRを含めた欠課状況を早期に把握し、学年部との情報共有により欠課過多生徒を減少させる。		
	基礎学力の向上を目指し、原級留置・中途退学者を減少させる。	シラバス及び年間授業計画により、指導目標を明確にし、その上にたった教科指導を実施する。 基礎・基本の充実及び習得のため、能動的学習やICT等を活用した研究授業を通して効果的な指導の方策を研究し実施する。 教科と連携し、基礎学力補充の計画的実施とその内容の充実を図る。		
	コースに応じた適切な評価により、学習意欲の向上及び学力の伸長を図る。	コース及び科目による統一された評価規準を設定し、評価の情報を共有することで、適正な評価をする。		
	土曜授業の円滑な実施に努め、アカデミーコースの学力向上を図る。	土曜授業の特色を活かした授業を実施し、学ぶ意欲と知識を活用しようとする態度を育成する。		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
生徒指導 特別活動	部活動、特別活動や体験学習を通して、規範意識を確立させ、積極的に社会へ貢献する意欲・態度を養成する。	部活動加入率を男子70%、女子50%以上に引き上げ、次年度以降を見据えて、中学生や保護者から認知される部活動へと活性化を図り、内容を広報するとともに競技力の向上を図る。また、地域中学校との交流をさらに強化し、地域密着型の部活動としてのあり方を検討し、発信する。 地域や各関係機関主催の各種行事に生徒会やキャリア系クラスを中心に積極的に参加させる。 各種ボランティア活動により一層、積極的に参加する生徒の育成を目指し、全校的な取り組みへと展開する。		
	基本的生活習慣の確立を図り、規範意識を育成する。	立門指導、校内・校外巡回指導や身だしなみ指導の効率化と効果向上を図る。「東稜ハイスクール・ハンドブック」の活用と実践を充実させる。 駐輪・交通安全指導週間や遅刻指導を通して、登下校時の自転車通学におけるマナーの向上や授業規律の確保、基本的生活習慣の確立を図る。 学年部との連携のうえ、各学年生徒の特徴を把握するとともに学年アッセンブリー等を活用して、タイミングを逸さない指導（啓発・呼びかけ等）を徹底する。		
	深い信頼関係に基づく人間関係を育成し、明るく他者を思いやれる望ましい集団を構築させる。	生徒会活動に助言・指導・支援をして各種委員会を積極的に活動させ、質の向上を図る。 新入生歓迎会、文化祭、体育祭、生徒総会等の一層の内容の充実と企画提示を図る。		
進路指導	生徒の3年間を見通した進路指導・進路学習を行う。	計画的に説明会、見学会、体験学習等を実施し、進路意識の向上を図る。 あらゆる機会を捉えて、生徒の人間力、将来の社会人としてのマナーの向上を図る。		
	就職希望者への指導の一層の充実を図る。	就職対策講座の充実を図るとともに、社会常識を身につける指導の徹底を図る。 企業訪問等を積極的に行う。		
	進学希望者へのきめの細かい指導の一層の充実を図る。	実力テスト等の事前事後指導を充実させ、教科・学年と連携し、分析を学習指導に役立てる。 進路補習、学習合宿等を行い、学力の伸長を図る。		
人権教育	あらゆる教育活動を通して、基本的人権を尊重する精神の涵養を図る。	学校や地域の実態に即した人権教育推進計画を年度当初に策定し、全校で推進する。また計画の実施状況を点検、評価を常時行い、改善を図りながらの実践を推進する。		
	自己と他者を尊重する豊かな感性を育み、実践できる態度を育成する。	人権教育会議を開催し人権学習や講演会の企画・立案を行い、関係分掌、教科、当該学年と連携・協議して実施する。 特別活動に限らず、学習活動を通しての人権啓発、また、学校行事や部活動を通して、他者への理解、尊重する態度の醸成に努める。		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
健康・安全 教育	交通安全や薬物に対する正しい知識と理解を深め、規範意識の向上と道徳観を育成する。	1年生対象に「薬物乱用防止講演会」「非行防止講演会」「情報モラル教育」を実施する。 山科署交通安全課、醍醐十校区自治連合会、PTAとの連携を密にし、登下校時の交通安全指導（特に自転車走行のルール遵守）を推進する。 通学別に自転車危険箇所通学生徒対象に事前指導を徹底して、安全走行マナーの習得を推進する。		
	支援を必要とする生徒に対する情報を教職員が共有し、協力して具体的な支援ができる体制を作る。	教育支援会議で生徒の情報を掌握し、職員会議などで共有する。 教職員によるチームや外部機関との連携によって、個々の生徒に応じた支援をする。 教育相談や特別支援についての理解を啓発する。		
	生徒が自分自身の身体や心についての理解を深め、自己管理できる能力をつけられるよう働きかける。	性や社会的スキルに関する知識を持ち、実際に対応できる力を身につけさせる。 講演会だけでなく、保健だよりや掲示物を通じて、生徒の意識を啓発する。 相談や支援を必要とする生徒に対して個別に粘り強く指導する。 委員会活動を充実させ、生徒が自主的に取り組む仕掛けを作る。		
学校図書館	図書館の魅力ある環境づくりに努め、来館生徒数の増加を図る	「おはよう読書」週間、読書週間、東稜祭などの機会に各種イベントを開催する。 学校図書館としての機能をより充実させ、利用者の利便向上に努める。 「おはよう読書」活動の周知啓発に努め、本当の特色的活動として充実を図る。 図書委員会活動の活性化に努める。		
	情報分野の環境整備を進める。	時代に即応した視聴覚機器の更新・充実を図る。		
	芸術文化教育を推進する	第3学年を対象に「芸術文化団体鑑賞」を実施し、演劇活動への興味関心を高める。		
学習環境 安全管理	学習環境や生活環境を整え、生徒の美化・衛生意識を向上させる。	日常の清掃活動に取む意識を高める。 委員会活動を通じて美化・衛生への意識を高める。		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
施設・設備管理	安心・安全で教育効果向上に繋がる施設・設備環境の維持・管理に努める。	教職員の連携と施設巡回を徹底することにより、破損箇所や危険箇所の早期発見・早期改修が可能な体制を確保する。効率的に予算を執行することにより教育環境の一層の改善を目指す。		
情報・文書管理	適正文書管理による情報管理体制を推進する。	紙媒体文書の適切な保管・廃棄や個人情報を含む電子データの適正な管理を徹底し、確実な情報管理体制を確立する。		
修(就)学支援	修(就)学機会保障のための支援策を充実させ、保護者への情報提供を促進する。	生徒の学ぶ機会を保障するための支援策を漏れなく周知することにより、在学中や卒業後の経済的不安を軽減し、希望進路の実現を援助する。		
家庭・地域社会との連携	開かれた学校を目指し、活発な広報活動や情報発信を行うとともに、本校の特色ある様々な教育活動と未来像を発信するための企画を充実させる。	東稜だより、学校案内パンフレット、ポスター及び学校説明会等の内容を充実させるとともに、積極的な中学校訪問を通して本校の魅力をアピールすることにより、生徒に選ばれる学校としての広報を強化する。 ホームページやお知らせメールを積極的に活用し、保護者や地域への情報発信を行うとともに、その内容を、各分掌、教科等と連携を図りながら着実に進めていく。		
	P T A活動と連携を図り円滑な運営に寄与する。	組織的な活動に努めることで、本部役員と常任委員及び学校との連携密にし、各種活動を通して保護者及び教職員間の交流を図り、開かれたP T A活動を実施する。		
	地域に信頼される学校として、各種の地域行事、関連行事などへの積極的な参加を推進する。	地域との交流を積極的、継続的に実践し、「人間力」を育むキャリア教育の一翼を担う。また、ボランティア活動など、地域への貢献・地域に寄与する学校としての取組を充実させる。		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
学年	<p>【第1学年】 高校生としての自覚と目標を持ち、落ち着いた学校生活を送らせる。 また、学年、学級指導を計画的に行い、自己と他者の関わりを大切に、互いに協力し合って高め合える学年づくりを目指す。</p>	<p>時間とルールを守り、言葉遣いや身だしなみなどを整え、基本的な生活習慣を確立させる。 学習環境の整備、学習習慣の確立を図り、基礎学力を向上させる。実力診断テスト等の結果を振り返り、その後の学習の指針とする。 学級活動や面談を通して、進路意識を育み、自覚意識を持って授業や部活動に取り組ませる。 研修旅行などの学年全体での取組を通して、「思いやり」の心を行動に繋げ、互いの個性を尊重して協力し合える集団づくりを目指す。</p>		
	<p>【第2学年】 中心学年としての自覚と責任感を備えた高校生活を送らせる。学校生活において、協力し合い、個性を生かした活躍ができる学年づくりを目指す。進路指導の確立に向けて個に応じた計画的な指導をする。</p>	<p>時間とルールを守る等、基本的な生活習慣のさらなる定着を目指す。 進路学習や面談、外部機関との連携等を通して、具体的な進路目標を確立させる。 進路目標を見据えた上で、授業や自宅学習に真剣に取り組む姿勢を定着させる。模試や進路補習等を通して、学年全体で切磋琢磨できる環境を整える。 学校行事を通して、主体性と協調性を培い、本校の中心的学年としての責任感を養う。</p>		
	<p>【第3学年】 各自の希望進路の実現に向けて、学習・生活・学校行事等、さまざまな場面で責任感を持って行動する習慣を持たせ、社会へ出るための心構えを作り、充実した高校生活を送らせる。</p>	<p>生徒一人ひとりの進路希望に応じた細やかな支援を実現する。 学年全体が一体感を持ち、切磋琢磨し合いながら、進路実現に向けて邁進するために、進学補習や就職講座、自学自習の指導などを徹底する。 最高学年として、社会に出るにあたってのルールやマナーを徹底して身に付け、学習以外にも何事にも一生懸命に取り組む姿勢を育て、主体性やコミュニケーション能力を伸長する。</p>		

平成29年度 府立東稜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階：実施段階）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
国語科	生徒の意欲と努力を喚起し、評価する。	生徒の意欲を引き出す課題を提示し、適切に評価する。 小テストを継続的に実施し、漢字力や語彙力・古典語力の定着を図る。		
	進路を意識した発展的な学力を育成する。	進学補習を実施し、その充実を図る。 社会人講師を活用して、幅広い考え方や感じ方に触れる。		
	社会人として基礎力を育成する。	1年次より自己理解を促進し、文章表現力を高める。 発表をすることや、評価をし合う活動を通じて、コミュニケーション能力を養う。		
	教員間の連携を深め、共通理解を努める。	教科や進度の打合せを継続し、試験の一部共有化を試みる。 生徒の情報を共有化し、指導に役立てる。		
地歴公民科	個々の生徒に応じた指導のあり方を追求し、生徒の興味・関心・学習意欲を喚起させる教科指導・評価をさらに工夫する。	学習ノートやプリント等の提出により生徒の知識定着度・理解度を日常的に確認する。授業内容の応じたワークを用いて生徒の表現力を育成する。 研究授業等を活用し、指導や評価の情報の交流を推進する。		
	自ら積極的に学ぶ力をつけ、発展的な学習をさせる。	視覚教材や地図等を積極的に利用した体感的な学習、さらに外部機関との連携を図った、アクティブラーニングを展開し、生徒の学習意欲の向上させる。		
	生徒の進路目標に応じた授業を行う。	クラスの持生や生徒の適性・進路に応じた教科や授業方法を工夫する。		
数学科	「わかりやすい」「理解できる」授業を実践するだけでなく、生徒が「やり切る」姿を見届するまでを意識して取り組み、不認定者数を減らす。	小学校・中学校でのつまずきを確認し、克服できる授業を入学当初に行う。 問題集の提出、平常テストや長期休業明けの課題テストなどをこまめに行い、基礎学力を定着させる。 コースに合わせた到達目標を設定し、連携しながら授業を進め、目標達成していない生徒に対しては適宜補習を行う。 公開授業後の振り返りを実施させ、教員指導力を高めよう。		
	進路実現に向けた取組を計画的に進める。	府立高校実力テスト、進研実力テストなどの事前指導、事後指導を充実させる。 長期休業中に進学希望者対象の補習を実施する。 進路希望に沿った平常進学補習の充実を図る。		
	高大連携を積極的に進める。	大学からの出前授業等を行い、数学のつながりや有用性を実感できる機会を増やす。		
理科	日々の授業において学習規律の向上に努め、視覚教材などを用いて、より一層の興味付けを行いながら基礎学力の涵養に努める。	授業における指導状況の事後対応に努め、課題の共通理解を図ることで指導に役立てる。ICT機器の積極的な導入・活用を図る。 学習課題や小テスト等を実施し、学習内容の定着及び家庭学習の習慣づけに努める。		
	充実した進路指導を推進するために、個々の希望に応じた適切な進路学習指導を実施する。	進学補習において、センター試験・二次試験対策など、個々の希望に応じ、充実した補習になるよう努める。		
	それぞれの分野に関する最新の情報を共有を行い、教科の発展的指導・理系の進路指導の助力となるように努める。	関連する大学・企業・施設等の見学会や連携事業を計画的に実施し、教科指導、進路指導に役立てる。		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
英語科	英語を通して言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションをしようとする態度を育成する。	コミュニケーション英語Ⅰ・英語表現Ⅰを中心にAETとのTT授業を定期的 に実施する。またICTを活用して生徒の理解を深める。		
	基本的な英語能力の定着を図る。	入学時に新入生の学力を把握し、基本的な内容の定着に努める。 小テストの実施がワークブックの活用により家庭学習習慣を確立させるように努 める。		
	進路選択に向けた教科指導の充実を図る。	副教材を取り入れ、密度の濃い授業を行う。 土曜授業等を活用し授業内容の充実を図る。 各学年ごとの確かな進路確立を実施する。		
保健体育科	運動の意義について理解を深めると共に健康づくりや体力の向上の方法を理解させる。また、生涯にわたって健やかな身体を養うための実践力と知識を身につけさせる。	健康のさまざまな側面について理解させ、健康づくりのための運動の大切さを理 解させるとともに体力づくりを実践する。 2時間連続の授業を確保し、持久走授業を通して循環筋力や基礎体力の向上並び に体づくりを目指す。		
	心と体を一体としてとらえ、授業を通して運動を実践していく中で、心身の調和のとれた発達を促す。	年度初めに全学年で集団行動を取り入れ、規律意識の向上に役立てる。 体育理論、生涯スポーツ、体育特講の各授業内容を工夫し、学年を超えた縦のつ なかりの強しを図る。		
	個人生活や社会生活における健康や安全に関する事柄を生徒を通じて捉え、自らの健康を管理し、改善できる資質能力、態度の向上を図る。	ルールやマナーを守り安全に配慮すること等により、体育の授業をより円滑にそ して安全に参加し活動させるための心構えを身につけさせる。		
	キャリアコースライフスポーツの講義（講義）や実習の内容をより一層充実させる。	体育理論、生涯スポーツ、体育特講の各授業内容を工夫し、学年を超えた縦のつ なかりの強しを図る。 外部講師の活用を充実させ、内容の整理を巡りながら、より質の高い取組を実施 することにより、専門種目の技術の向上に繋げる事を目指す。		
芸術科	生徒自らが積極的に芸術に取り組み姿勢を身に付ける。また、芸術の表現や鑑賞の視野を広げられる心情や学力を養う。	授業規律を確保し、積極的に授業時間に取り組みよう教材を工夫しながら、表 現の質を高められ、かつ達成感や得られる指導を目指す。 社会や身の回りの人との関わりを大切にする鑑賞教育を積みながら、芸術文化を 愛好し、相互鑑賞が可能となる授業展開をすることで情熱を養う。		
家庭科	生徒が自分の生活を幅広い視点から見つめ、主体的に生活の充実と向上を図る学びの方向性を示す。	主体的に生きる生活者として不可欠な技術・能力を身につけることを目標に実験 ・実習を取り入れる。 社会と自分の関わり、家庭生活と自分の関わりを実感し、生徒自身が主体的に考 える力を育てる教材を工夫する。		
情報科	情報活用の実践力を高めるとともに科学的な理解を深め、情報社会に参画する態度を養う。	情報を適切に扱ったり、自ら情報活用能力を評価・改善するための基礎的な知識 や考え方を学習させる。 情報が情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの 必要性や情報に対する責任を考える態度を養う。		

学校関係者 評価委員会 による評価	
-------------------------	--

次年度に向け た改善の 方向性	
-----------------------	--